

現代日本語における形式名詞「せい」の意味・用法

タナン・ポンサン*

キーワード：望ましい結果 中立的な結果 望ましくない結果，終止 非終止，断定形 推量形

要旨

現代日本語には、「せい」という形式名詞がある。「せい」は話し手の主観的な評価を伴う因果関係を表す表現で、日常的によく使用されている。しかし、文型辞典や日本語の教科書には、「せい」については少ししか記述されておらず、本格的な研究はあまりなされていないようである。このため、「せい」が文中で実際にどのように使用されているのか、また、いかなる特徴があるかは十分に把握できない。

そこで本研究では、小説から採集した実際の用例を用いて分析を行い、現代日本語における「せい」の意味・用法について明らかにすることを目的とする。

分析の際、現れた形式によって、「せい」を主に「せいで」「せいか」「せいだ」「せいに」「せいも」の五つに分類して考察する。本稿は、用例の量的分布と各形式の相互関係を考慮し、「せいで」「せいか」「せいだ」「せいも」の形を中心に、その意味・用法を順に考察していくことにする。

研究結果として、「せい」の各形式は「評価性」「文中での位置」などの観点で、相互的に使い分けられている。そして、望ましくない結果の場合だけでなく、因果関係の確定性・他の原因の存在などの条件で、望ましい結果の場合でも使用できることが分かった。

この研究の成果が、日本語教育現場に多少なりとも役立てばと願っている。

1. はじめに

日本語教育現場には、「せいで」「せいか」「せいだ」という文型は、日本語能力試験2級相当として説明されている。例えば、『どんな時どう使う日本語表現文型500』では、「せいで」「せいか」「せいだ」を、次のように説明している。

「の原因で、悪い結果となった」と言いたい時の言い方。

*TANAN Ponsan：プリンス・オブ・ソンクララー大学パッターニー校講師

林さんが急に休んだせいで、今日は3時間も残業しなければならなかった。
 タンさんは最近体の具合が悪いと聞いているが、気のせいか、顔色が悪く見える。
 兄さんが今日晩御飯を全然食べなかったのは病気のせいだと思う。

しかしながら、試験問題や、実例などを調べてみると、上の説明に当てはまらない用法も少なくない。

例) そのあとシナリオ・ライターを志し、その道で成功したのは、圭子の賢明さと努力のせいだろう。(他人同士・116)

上記の説明では、「せい」は悪い結果に良く使われていると書いているが、上の用例は良い結果でも使用される。どうして使用できるのか、その使用条件は何か、従来の研究とどう関連があるのか、などの疑問が出てきた。そこで、本研究では、このような用法の条件を追求し、「せい」の意味・用法について明らかにすることを目的とする。

2. 先行研究

「せい」に関する本格的な研究はほとんどないため、本研究が参考にした記述は、主として日本語教科書、文型辞典や辞書の中の記述内容による。以下には、「せい」の用法に関する記述のうち、本稿の内容に大きく関わると思われるものを中心に取り上げる。

2-1. 「せい」に関する一般的な記述

まず、文型辞典や辞書の記述を概観しておく。ここではその代表として『教師と学習者のための日本語文型辞典』を取り上げるが、他の多くの辞書類にも同様の記述が見られる¹。

『教師と学習者のための日本語文型辞典』には、「せいで」はよくないことが生じたことの原因や責任の所在を表すのに用い、後半にはその原因から生じたよくない事態を表す表現が続くと記述されている。次に、「...のは...せいだ」は、好ましくないことがらを先に述べて、それが起こった原因がなんであるのかを述べるのに用いると説明されている。そして、「せいにする」はよくない結果が起こったことの原因を一方的に決めつけることを表し、本当はそれ以外に責任があるという意を含むことが多いと述べられている。

さらに、「せいか」は原因、理由を表す言い方で、その結果がよい場合、悪い場合どちらにも使うと記述されている。

¹ 『外国人のための基本語用例辞典』(1975)、『類語例解辞典』(1994)、『A DICTIONARY OF INTERMEDIATE JAPANESE GRAMMAR』(1995)など、他の文型事典や辞書の記述にも同様の指摘が見られる。

2-2. 個別の形式に見られる特徴

2-2-1. 「せいか」の並列

安達(1995a)ではノカ節²と「セイカ」などの原因理由節を比較し、両者の違いについて、その従属節(「せい」に前接する部分)の表す内容の真偽が不確定であるか(ノカ節)、確定的であるか(原因理由節)にあると説明している。以下の例を比較されたい。(なお、この用例は、安達の挙げた例を筆者が簡略化したものである。)

- ・おなかがすいたノカ, 赤ん坊が泣き出した。:「おなかがすいた」かの真偽は不確定
- ・おなかがすいたセイカ, 赤ん坊が泣き出した。:「おなかがすいた」は真

安達はこの違いが、従属節の並列の際にも影響すると考察したようである。ノカ節はその節の表す事態の真偽が不確定だから、可能性として複数のことを挙げるのが可能で、逆に原因理由節は事態の真偽は確定的であり、ある出来事の起きた原因として、その一つを選び出していることになるため、並列が不可能なのだと説明している。つまり、ノカ節は「...のか、...のか、~」のように並列が可能になるが、「...せいか、...せいか、~」などのように、「カ」を付加した原因理由節の並列はできないと指摘している。

2-2-2. 文の変形と「せい」のとり形

森田(1980)は、「おかげ」「ため」と比較しつつ、2.1に示したような「せい」の特徴を指摘している。さらに、「せい」の用いられる文について、「稲の立ち腐れが出たのは雨が多かったせいだ」は「雨が多かったせいか、稲の立ち腐れが目立つ」のように、「.....は.....のせいだ」という文型は「.....のせいか.....だ/.....したせいか、.....となった」という文型に変形し得ると説明している。

2-3. 先行研究のまとめ

以上見てきた先行研究の主な指摘をまとめると、次のようになる。

- ①「...せいで~」,「(~のは) ...せいだ」の形で事柄の原因を表す。この場合、基本的に、その原因によって引き起こされるのは悪い結果である。
- ②「...せいか~」は、「...せいで~」より責任の所在が曖昧になった表現である。この場合、その原因によって引き起こされるのが悪い結果でも、いい結果でも使用可能である。
- ③「...せいにする」は、よくない結果が起こったことの原因を一方的に決めつけることを表す

² ノカ節というのは次のようなものを指す。(用例は安達 1995a より。下線は筆者による)

・裕子は窓際の席に腰をおろしたまま、掌で頬を支えて窓の外を見ていた。さっき窓ガラスを撫でていた樹木の葉が、風がやんだのか動きを止めて、時おり微かに震えていた。鷺沢萌「東京のフラニー」

言い方である。

- ④「～は…のせいだ」という文型は「…のせいか～だ/…したせいか、～となった」という文型に変形し得る。
- ⑤「…せいか、…せいか、～」などのように、「カ」を付加した原因理由節の並列はできない。以下、本稿では実例に基づいた分析を行い、上記の点について検証する。

3. 分 析

まず、1980年以降の小説(70冊)・論述文のテキスト(23冊)から収集した「せい」の用例の量的分布を挙げておく。

表1 「せい」の全体像

「せい」のとり形	数
「せいで」	295
「せいか」 ³	191
「せいだ」 ⁴	364
「せいも 」 ⁵	69
「せいに 」	25
その他 ⁶	20
合 計	964

表1から分かるように、「せいで」「せいか」「せいだ」の形は使用頻度が相対的に高かった。「せいだ」については 終止 の位置の諸形式を含むため、以下では、まず、形の固定している「せいで」「せいか」について述べる。本研究の結果から言うと、「せい」のとり形と、意味・用法には相関関係が見られた。そして、「評価性⁷」と「文中での位置⁸」という分析の観点から見ても「せいも 」の形も同じように考えられた。以下、「せいで」「せいか」「せいだ」「せいも」の

³ この表では、「せい」が非終止の位置で用いられ、「か」を伴っているものを一括して「せいか」としてある。「せいなのか」「せいだろうか」などの形を含む。

⁴ この表では、「せい」が終止の位置に用いられているものを一括して「せいだ」としている。「せいだった」「せいです」「せいではない」「せいなのだ」および「せいだろう」「せいだろう(か)」などの形も含む。

⁵ 「せいも 」のように表しているのは、「せいもある」のように、この形が基本的に動詞とくみあわさって用いられる形だからである。「せいに 」についても同様。詳細は3.4を参照のこと。

⁶ 「せいばかり」が9例、「せいだけ」が10例、「せいなど」が1例見られた。

⁷ ここでの評価性とは、先行研究で記述されている、もたらされた結果が望ましいものであるか否か、ということの意味する。

⁸ 具体的には、終止形 か 非終止形 かという観点である。

形を中心に、その意味・用法を順に考察していく。

3-1. 「せいで」

「せいで」は、非終止の位置で用いられ、望ましくない結果の原因を表す表現である。「せいで」の前接要素⁹には、名詞、形容詞、動詞、指示形容詞（連体詞）「その」が見られ、文末の述語には基本的に動詞述語と形容詞述語が使用される¹⁰。

1) 腕時計に目を走らせると、時刻は午後の八時だった。今回は、モリーが眠りに誘ったというよりは、昼間の岸村先生のカウンセリングの際の緊張と、その後の秋葉秀文からの電話のショック、そして前夜の寝不足のせいで、すっかり眠りこけてしまっていたらしい。朝、寝ぼけ眼で目覚まし時計を止めたから、リリースの状態ではなく、セットの位置でボタンを放置したのだろう。(メモリー・158)

2) 「ハバリ・ヤコ？」

ルオ族出身の彼は、他のケニア人と比べても顔がひときわ黒いせいで、歯の白さがよけいに目立つ。

「ンズリ」(野生・102)

3) あの時と同じように、濃密なガスが辺りを覆いつくしていた。顔の前にかざした自分の手さえが、見えなくなっている。この奥遠和の山々は、何かあっても、自分をいじめ抜こうというつもりでいるらしい。視界が急に奪われたせいで、体のバランスが崩れ、再び雪の上に倒れていた。もはや、そこから立ち上がることができなかった。最後に残っていた気力までもが、この深いガスの中に吞まれ、風に飛ばされ消えていった。(ホワイト・614)

4) 祥子のことなんて言えないわ、と飛鳥は思った。私だって、つまらない女のプライドにがんじがらめになっている。そのせいで、もしかすると運命の出会いだったかもしれないものを、ちっばけな思い出としてみすみす見送ろうとしているのだ。(野生・63 64)

5) 走り寄って声をかけるのはなんのためらいもなくもなくてできることだったが、私は熱のせいでなにもかもが面倒くさかったため、歩いていたそのままのテンポで彼のほうへ歩いていった。(キッチン・174)

⁹ 「せい」の直前に現れるノ格名詞や連体形の動詞などの部分を指して、この用語を用いる。

¹⁰ 以下で挙げる用例の出典は稿末に記す。用例に施した下線等は筆者によるものである。

先行研究に記述されているように、「せいで」の形はその前に記された部分で原因を表し（波線部）、後に続く部分はその原因から生じた、望ましくない事態を表す（棒線部）例が多い。（なお、指示形容詞とくみあわさった「そのせいで」の場合には、指示されている文脈を点線で示している。）

- 6) もう一つは、和代と辻山が自分のせいで死ぬようなことになったら、一生悔むに違いない、という気持。（シングル・249）
- 7) 若くしてふたつ目の国籍を持ったオヤジは歳を取り、ハワイのためにみつ目の国籍取得に乗り出した。理由は簡単。北朝鮮はアメリカと国交がなく、ビザが下りないからだ。ちなみに、北朝鮮が国交を結んでいる国が極端に少ないせいで、《在日朝鮮人》の旅行先も、かなりの狭さに限られてしまう。（GO・10）
- 8) 二人はそれぞれの思いを胸に秘めたまま、別れることとなった。言語が通じないせいで、芽実の落胆はいっそう増してしまった。ぼくが通訳をするのにも限界があった。通訳をしなければ通じ合えないことのショックはまず芽実を襲い、彼女を失語症のように無口にさせてしまった。（冷静・105）
- 9) 酔っていたから？ そうだろうか。そのせいで、欲望に火がつかなかったのだろうか。それとも、私の正巳に対する欲望が、初めから抑えられていたからなのだろうか。（欲望・289）

しかし、文末の述語に「見える」「聞こえる」「感じる」のような知覚活動を表す動詞が用いられている場合、そこに述べられる結果は必ずしも望ましくないものに限らない。この場合、結果に対する評価性はあまり感じられず、単に話し手の知覚した印象を述べるものとなる¹¹。

- 10) 空から大きな雪片がゆっくりと舞い下りていた。それはまだ本格的に降りではなかったけれど、雲のせいで街の音はいつもとちがって聞えた。（ダンス・181）
- 11) ふと見ると、すぐそばの夏椿^{シヤラ}の根もとに、いつもの猫が来て座っていた。体全体が金色に近い褐色をしているせいで、小さな雌ライオンのように見える。アビシニアン^{アビシニアン}の血が混じっているのかもしれない。（野生・6）

¹¹ ただし、その知覚内容に話し手が何らかの違和感を感じていることが示されている例もある（用例 10）「いつもとちがって聞えた」など）。

12) 真の闇に支配されたひとつの宇宙がここにあった。重力が消え失せ、身体の重みはまったく存在しない。直径二百メートルにも及ぶ球形の内面を、響の目はとらえているはずなのに、闇のせいで、空間が無限に広がるかのように感じられた。(ループ・400)

なお、いずれにしても、結果を表す出来事が非意志的事態の場合にのみ使用できることが分かった。この点を考慮すると、はたらきかけ文(命令文)には、基本的に「せいで」は使用できないと予想される。

3-2. 「せいか」

「せいか」も 非終止 の位置で用いられる形である。「せいか」の前接要素には、「せいで」の場合と同様、名詞、形容詞、動詞など種々のものが見られた。また指示形容詞「その」とくみあわさった「そのせいか」の形も見られた。文末の述語には基本的に動詞述語と形容詞述語が現れる。

13) 周一は、暗い木立の方へ視線をずらせた。三日ほど前に降った雨のせいか、腐葉土^{ふようど}の匂いがきつい。(新人王・113)

14) いちいち指示しているうちに、なんとなくそれらしい絵ができあがりつつあった。だがこちらの説明が悪いせいか、なかなかそっくりとまではいかない。(転生・88)

15) 火災現場から運び出された直後の、担架にのせられたままの焼死体だった。焼けただれた衣服が特に下半身に付着しており、焼死体特有のボクサー型の姿勢をとっているが、全身に煤を被っているせいか、ほとんど真っ黒で表情などはつかめない。(牙・57 58)

16) 結婚当初、沙夜子は料理があまり上手ではなかった。だが、一生懸命に頑張っていることは私にもわかった。そのせいか、調理の腕はそれなりに上達していった。(皆月・24)

すでに先行研究で指摘されているように(2-1.参照)、「せいか」の形は「せいで」と違い、望ましくない結果 だけではなく(用例17)、望ましい結果(用例18)もしくは、どちらとも言えない 中立的な結果(用例19)の原因を表す場合にも使用できることが、今回収集した用例からも確認できた¹²⁾。

17) やはり徹夜明けのせいか真っ赤な目をしている。(リング・16)

18) 柊が帰ってから私はまた眠った。風邪薬のせいか、久しぶりに安らかに、夢も見ずに深く眠った。それは、幼い頃のクリスマスイヴのようにどきどきした神聖な眠りだった。(キッチン・185)

19) 日ざかりの中、照り返しの強い田舎道を歩き、気がつくと浜辺ではなく、防波堤が伸びている静かな一角に足を踏み入れていた。そこだけが小さな入江になっていた。「遊泳禁止」の立札がたっているせいか、人影は見えない。(欲望・74)

安達(1995a)はノカ節は並列が可能になるが、セイカ節のような原因理由節は「...せい、...せい、～」のように、並列することはできないと指摘し、次のような例を挙げている。

例1) コーヒー・カップに口紅が残っていても、知っていて知らんぷりをしているのか、気がつかないのか、平気で唇をつけている。(向田邦子「パセリ」)

例2) ??彼は試験に落ちたせいか、彼女に振られたせいか、最近元気がない。

例3) ??夏休みが終わったためか、雨が降っているせいか、お客さんが少ない。

そして、その理由を、安達(1995a)は以下のように説明している。

ノカ節は、主節の事態の背景として、話者にとって真偽が確定できない事態を設定する表現であり、主節事態の背景には複数の候補があってもかまわない。したがって、並列は可能になる。しかし、因果関係を表す節の場合には、因果関係が成立するか否かは不確定とはいえ、ひとつの候補としてその従属事態と主節事態の組み合わせを選択したことになるので、並列は許されないだろう。(p. 252)

しかし、実際の用例を見ると、原因と考えられる二つ以上の事柄を、「...せい、...せい、～」の形で並列している例が見られる。

20) デイドロは、すでに多くの病人や奇形の観察などから睡眠や夢は神経の網の作用によるもの、と考えており、「睡眠というのは疲労のせいか、習慣のせいか網全体がゆるみ、じっとしている状態、総体の調和がなくなった動物の一つの状態、あらゆる従属関係が停止す

¹² また、用例数は少ないが、「せいだろうか」「せいなのか」という形の例も見られた。現段階で得られているのは 望ましくない結果 の例のみである。望ましい結果 や 中立的な結果 の例が現れないのかどうかについては、用例数を増やして確認する必要がある。

る」ことを、彼の戯曲『ダランベールの夢』でポルドゥなる医者に語らせている。(夢・19
20)

21) 働きづめの生活だったせいか、それとも二十代の後半に、すっかり抜けてしまった髪の毛のせいか、今年で四十になる社長は独身だった。(死神・67)

また、「...せいか、...せいか、～」だけでなく、「せいか」が「ためか」や「のか」と並列されたものも見られた。

22) 一度直接の上司に、騒音を数値だけで取り締まるのは意味がないのでは、と提言したが、言ったのがエレベーターの中だったせいか、それとも僕の声が小さすぎたためか、そうだな、と曖昧な返事をされて終わりとなった。(アンチノイズ・11)

23) ロビーの照明のせいか、化粧がいつもより濃いのが、美奈子の目鼻だちがくっきりして見えた。(虚飾・37)

このように「せいか」は並列できるようである。従属節の並列の際に問題となるのは、原因・理由と結果の結びつきが確定的かどうかであり、その結びつきが不確定であれば(つまり、まだ原因が特定できていないのであれば)、「せいか」のような原因理由節であっても、原因と考えられる事柄を複数並べることが可能なのではないかと思われる。

3-3. 「せいだ」

「せいだ」は上の二つとは異なり、文中の終止の位置で用いられる形式である。『教師と学習者のための日本語文型辞典』によると、「せいだ」(「～のは...せいだ」のパターン)は好ましくない事柄を先に述べて、それが起こった原因がなんであるのかを述べるのに用いと説明されている。なお、以下では「～...せいだ」のように、2文に分かれている場合も、このパターンに準ずるものとして同様に扱う。

24) 「^{ちょうこう}朝貢」の意味は、現代の日本では、まったく誤解されている。誤解の原因は、主として、現代の中国人の政治的な宣伝のせいだが、これにまどわされた日本の東洋史学界では、朝貢を次のように定義するのがふつうだ。(歴史・203)

25) いつまでたっても僕が成長できないのは、全てヒカルのせいなんだ。(ピアノシモ・160)

しかし、実際の用例を見ると、必ずしも 望ましくない結果 が生じているとは思われない例も少なくなかった。

26) アーケードがことさら明るく感じられるのは、オリンピックを間近にしてうかれ上がった景気のせいだろうか。(地下鉄・59)

このような現象は「せいだ」が「せいだろう(か)」のような推量形をとる場合によく見られた。そこで、以下では、「せいだ」の形式を 断定形 と 推量形 (およびそれに準ずるもの) に分けて、見ていく。

3-3-1. 断定形 の場合

終止 の「せい」は 断定形 になると、基本的に、望ましくない結果 の原因を表す。

27) こんなに借金返しに追われるのは、この国の税金が異常に高いせいだ。いっそこかへ移住してしまいたい。しかしこの庭の木とこの草たちは、そのあとどうなるだろう。(夫・77)

28) 「だけどね、喜平さん。私が辛いのは絵が描けないせいなんですよ」(桜雨・194)

29) ドウェックは、このような差が生じる理由を次のように説明している。「日頃、失敗は自分の努力不足のせいだと考える傾向が強いからこそ、がんばり型の子どもとなれるのではないか」と。(集中力・25)

このように、断定形 の「せいだ」は基本的には 望ましくない結果 の原因を表す。しかし、少数であるが、望ましくない結果 の原因ではない場合も見られた。例えば、結果として、「見える」「聞こえる」「感じる」のような知覚活動を表す動詞を用いて主体の知覚印象が述べられる。これらの動詞が用いられている場合、結果の好悪は問題とならない。このような現象は「せいで」の場合にも同様に見られた(3-1.参照)。

30) 幸子夫人だった。オレンジ色のフレアスカートに大きめの真っ白なアランセーターを身につけ、ティーカップの乗った盆を持っている。ウェーブのかかった長い髪は左肩の前でまとめられ、七宝の大きな髪飾りで止めている。それでも派手に見えないのは、いつも穏やかな表情のせいだ。(連鎖・242 243)

3-3-2. 推量形 の場合

断定形 の場合と異なり、「せいだ」が「せいだろう(か)」¹³の形になると、望ましくない結果 の場合だけでなく、どちらとも言えない 中立的な結果 の場合や、望ましい結果 の場合でも使用できる。

望ましくない結果 の場合

31) 毎日勝手に食べたり歩いたりするだけなのに、どことなく落ち着かないのは、東京から遠いせいだろうか。楽しくないわけではないのに、早く東京に帰りたいとも思う。(パピロン・263)

32) 「おかあさん」

おかあさんはソファにぐったり座ったまま眠っていた。

「おかあさんたら」

顔色が悪い。ひどく疲れているみたいだ。肩のところまで伸びた髪が、顔の半分をおおっているせいだろうか。(夏・115)

中立的な結果 の場合

33) 中央待ち合い室をざっと見渡し、おじいさんがいないことをたしかめると、ぼくはそれぞれの科の待ち合い室をまわりはじめた。お年寄りあまりいない。子どもと、そのお母さんと、ちょっと仕事を抜けだしてきた店員さんみたいな人が多い。午後のせいだろうか。前に、学校を休んで午前中来た時は、お年寄りとおなかの大きい女の人ばかりだったのに。(夏・42)

34) 一九七九年当時の話である。ビルの一階は、六〇年代の雰囲気を残した、薄暗い小さな骨董品店になっていた。よく磨かれた硝子に、遠くのビルや暮れなずんでいく春の空を映している二階の店と、一階の黒光りしているような店の雰囲気とが滑稽なほど相いれず、私が何ということはないにビルの前で歩みを緩めたのは、そのせいだっただろうか。(欲望・318 319)

望ましい結果 の場合

¹³ 「せいであるう」「せいでしょう」「せいではないだろう」および「せいではないのだろう」などの形も含むが、推量形の代表として、「せいだろう」の形で記す。また「せいだろうか」の形も推量形に準ずるものとして扱う。

35) そのあとシナリオ・ライターを志し、その道で成功したのは、圭子の賢明さと努力のせいだろう。。(他人同士・116)

36) アーケードがことさら明るく感じられるのは、オリンピックを間近にしてうかれ上がった景気のせいだろうか。。(地下鉄・59)

断定形 の「せいだ」が主に 望ましくない結果 をもたらした原因を表すのに対して、「せいだろう(か)」は 望ましくない結果 , どちらとも言えない 中立的な結果 , 望ましい結果 いずれの場合にも使用できる。このような現象は、非終止 の位置における「せいで」と「せいか」の違いと相関していると思われる。

望ましい結果 の原因を表す 終止 の「せい」は、基本的に 推量形 の「せいだろう(か)」の形をとっている。このような例で 断定形 の「せいだ」を使用すると不自然となる。

37) その道で成功したのは、圭子の賢明さと努力のせいだろう。。(他人同士・116)

37a) ? その道で成功したのは、圭子の賢明さと努力のせいだ。

そして、望ましい結果 の原因を表す「せいだろうか」の用いられた例を、原因と結果の順序を入れ替えて提示する場合、「せいか」なら適切だが、「せいで」を用いると不自然となる。

37) その道で成功したのは、圭子の賢明さと努力のせいだろう。。(他人同士・116)

37b) 圭子の賢明さと努力のせいか(せいだろうか), (圭子は) その道で成功した。

37c) ? 圭子の賢明さと努力のせいで, (圭子は) その道で成功した。

3-2. に記したように、非終止 の「せいか」は 望ましい結果 の原因も表すことができるため、上のような言い換えが可能である。一方、非終止の「せいで」は、基本的に 望ましくない結果 の原因しか表すことができないため(3-1. 参照), 上のような言い替えは不可能である。しかし、望ましくない結果 の原因を表す「せいだ」の文であれば、「せいで」を用いて言い換えることができる。

38) いつまでたっても僕が成長できないのは、全てヒカルのせいなんだ。。(ピアノシモ・160)

38') ヒカルのせいで, いつまでたっても僕は成長できない。

終止 の「せい」と、非終止 の「せい」の相互関係をまとめると、次のようになる。終

止の断定形「せいだ」は望ましくない結果の原因を表すという点で、非終止の「せいで」と同様である。一方、終止の推量形「せいだろう(か)」などは、望ましくない結果、どちらとも言えない中立的な結果および望ましい結果全ての場合に使用できる。これは、非終止の「せいか」の場合と同様である。換言すれば、因果関係の結びつきを確定的に述べる「せいだ」「せいで」は望ましくない結果の原因を表すという点で共通である。一方、「せいか」と「せいだろう(か)」は因果関係が不確定であることを示す。そして、これらは、あらゆる場合の原因を表すことができる点で共通している。

このように「せいだ」は「せいで」に対応し、「せいだろう(か)」は「せいか」に対応するとすれば、先に挙げた森田(1980)の次のような指摘は不適切だと言える。

「稲の立ち腐れが出たのは雨が多かったせいだ」「雨が多かったせいか、稲の立ち腐れが目立つ」のように、「……は……のせいだ」文型は「……のせいか……だ/……したせいか、……となった」文型に変形し得る。(p. 682)(下線は筆者による)

本研究の結果から言えば、非終止の「せいか」の形は終止における「せいだろう(か)」の形に対応する。一方、非終止の「せいで」は終止の「せいだ」に対応する。このことから、「～は…のせいだ」の文は「…のせいで～」に変形し得る、とするのが適切だと思われる。

39) 心持ち声が震えてしまったのは、寒さのせいだ。(牙・449)

39') 寒さのせいで、心持ち声が震えてしまった。

3-4. 「せいも」

「せいも」に関しては、先行研究では触れられていないが、実例では少なからず確認できた。「せいも」は基本的に他の語とくみあわさって用いられるが、そのほとんどが動詞「ある」である¹⁴。

40) 繁華街の外れにあるファミリーレストランは、幹線道路に面しているせいもあって、電車が終わろうとする時刻になっても混雑する。その夜も、六割ほどの席が埋まっていた。

¹⁴ くみあわさる語が「ある」以外の用例は以下の2例のみであった。

- ・その結果、どういことが起こったかという、彼の本来の気持ちを抑圧し、がまんし続けること、それと仕事が慣れたせいも加わって、しだいに単調化されてきたこと、情報の秘密を守らなければならないこと、などなどでした。(ストレス・91)
- ・ところが不意に現れたあおいに対してぼくはどう行動していいのかわからなかった。一緒にドウオモの階段を下りながら、これから先のことを考えるのが、幸福なのに、怖かった。会えないと思っていたせいも大きかった。会えなければこれで諦めがつく、と考えていた。(冷静・243)

(牙・6)

41) 桂介の気持ちは疲労のせいもあって、自分ではどうしようもないほど苛立っていた。(待・64)

とりたて助詞「も」とくみあわせることで、「せい」で示される原因以外にも原因があるということを示唆する言い方なのである。その証拠として、文脈に、別の原因が現れていることもある(二重線部)。

42) 安藤が知り得たのは、彼女が高野舞の姉で、名前を真砂子ということぐらいである。映画館のスクリーンを見ている、ストーリーが頭に入ってこなかった。眠かったせいもあるが、それ以上に、隣に座る真砂子の存在が気になっていた。(らせん・332)

43) ケンもジュンもレイコも、私が勝などにかかわったことについて、一度もほじくり返しはしないのだった。彼らは、終わったことについて話し合うことが嫌いな種類の人間なのだ。事あるごとに身近な大人達から反省を強要されているせいもある。(プール・180)

「せいも」の場合、動詞「ある」のとり形により、原因・結果の提示順には二つのパターンが見られた。

3-4-1. 「ある」が中止形の場合

「ある」が中止形で、「...せいもあり、~」「...せいもあって、~」の形になると、基本的に因果関係の提示順が「原因 結果」となる¹⁵。

44) 祖父の死についてはどこかで覚悟していたせいもあり、ジョバンナの死とは違い、ぼくの心にぽっかりと小さな穴を開けたに過ぎなかった。(冷静・226 227)

45) カールした髪は茶色に染められており、大胆な色使いのセーターを着ているせいもあって、一見して水商売風に見える。(理由・492)

¹⁵ 終止形に接続助詞のついた、「...せいもあるが」も同じ順番で原因と結果を表すことがある。
・時間が早いせいもあるが、あたりには入園者の姿はほとんどない。この時期には遠足の子供たちも少ない。(バビロン・122)

3-4-2. 「ある」が終止形の場合

「ある」が終止形で、「...せいもある」の形になると、基本的に因果関係の提示順が「結果 原因」というパターンになる¹⁶。この場合、「～のは...せいもある」と「～...せいもある」などのパターンが見られた。

46) だいいち、湘なんて名前じゃ、男か女か、よくわからない。実際に、よくまちがえられたものだった。あたしがジャジャ馬娘に育ったのは、この名前のせいもあると思う。(ピリー・23)

47) 車内はあまり混雑してなかった。ウィーク・デイのせいもあるし、午後一時頃という時間は遠距離旅行者が少ないのだ。(媚薬・77)

「せいも」の形は 望ましくない結果 だけでなく、望ましい結果 中立的な結果 をもたらした原因も表すことができる。先に見た「せいで」と「せいか」、あるいは「せいだ」と「せいだろう(か)」の場合、因果関係が確定的かどうかによって、望ましくない結果 の場合に制限されるかどうかが決まっていた。しかし、「せいも」の場合は必ずしもそうではないようである。用例 50)や 52)のように、くみあわさる動詞「ある」が推量の形をとっていても、中立的な結果 や 望ましい結果 の原因を表している例が見られる。このこともふまえて考えると、「せいも」の場合、ある結果をもたらした他の原因の存在を暗示することで、不確定なものに近づき、望ましい結果 でも 中立的な結果 でも、使用が許されるようになるのではないだろうか。

望ましくない結果 の場合

48) 桂介の気持ちは疲労のせいもあって、自分ではどうしようもないほど苛立っていた。だからいつもなら我慢のできることが堪えられなかった。(待・64)

49) 祖父は木製の古いベッドで寝ていた。入退院を繰り返しているせいもあり、この数カ月、目に見えるほどの勢いで体力が落ちていた。(冷静・200)

中立的な結果 の場合

¹⁶ 順序が逆になっている用例も 1 例見られた。

・早川と別れる決心を固めた珠代が、退院後の生活の不安を訴えると、外科医は、だったらうちの病院でヘルパーとして働かないか、と勤めてきた。外科医に浅い恋心を抱き始めていたせいもある。珠代は勤めに従うことにし、早川と別れて病院の近所にアパートを借りた。(うわさ・232)

50) マイホームが街から離れているせいもあって、晴子は夕刻の買い物以外、あまり外に出ない。家の中でのんびりとしているのが好きなタイプなのだ。(初恋・23)

51) 郁夫は、適当な弦を力任せに一つ強く叩いた。鋼鉄の弦が重たい音を響かせる。ホールのせいもあるだろうが、ただ一つの音がはっきりと耳の中で形を作った。それは騒音調査をしている時の、あの輪郭のない音とはまるで違う確かな硬さを持った縁取りされた音だった。(ノイズ・36)

望ましい結果 の場合

52) ホテルまでインスーが付き合ってくれた。この時点ではインスーのところで飲んだ温かいコーヒーのせいもあって、気分も幾分落ちつきを取り戻していた。アルノ川沿いの安宿にチェックインを済ませた後、二人は一階のレストランで食事した。(冷静・219)

53) 着ている寝巻も、食事の時に肩にはおるガウンも上等なもので、ひとつ間違うと厭味とも受け取れるほどの金持ちぶりであったが、気配りのきく人柄のせいもあってか、院内でもセツ子の人気は高かった。(うわさ・233)

3-5. まとめ 各形式の相互関係

以上見てきた結果から、各形式の意味・用法および、相互関係をまとめると、次のようになる。

表2 「せい」のふるまい方のまとめ

他の原因の存在	因果関係の確定性	非終止	終 止	評価性
言及しない	因果関係が確定的 ¹⁷	「せいで」	「せいだ」	-
存在する可能性を示唆する	因果関係が不確定	「せいか」	「せいだろう(か)」	- ± +
	くみあわせる語の活用形により変化	「せいもあって」	「せいもある」	

(「-」は 望ましくない結果 , 「±」は 中立的な結果 , 「+」は 望ましい結果 を示す。)

「せい」のそれぞれの形は、原因と結果の関係の確定性、文中での位置、他の原因の存在を示唆するか否か、という三つの側面でそれぞれ共通・対立している。このうち、因果関係の確定性と他の原因の存在との間には、相関関係があるようである。

¹⁷ ここでは必ずしも現実因果関係が確定的であるという意味ではなく、話し手が確定的に述べているという意味で、このように表現している。

因果関係が確定的であれば、「せい」の使用は 望ましくない結果 の場合に制限される。逆に、因果関係が不確定になると、望ましい結果 もしくは 中立的な結果 にも使用範囲が広がる。

つまり、因果関係が確定的で、他の原因がなく、これこそが原因であるということを示す「せいで」「せいだ」の形は、基本的には、望ましくない結果 の場合にしか使用できない。一方、因果関係が不確定で、他の原因の存在もあると考えられる「せいか」「せいだろう(か)」「せいも」は、望ましくない結果 に限定されず、望ましい結果 中立的な結果 でも使用できる。

また、文中での位置(非終止/終止)の観点から、原因・結果の提示順が二つに分けられる。基本的に、非終止 の場合、それぞれ「せいで」「せいか」「せいもあって」の形をとり、「原因 結果」という提示順となる。終止の場合、「せいだ」「せいだろう(か)」「せいもある」の形をとり、「結果 原因」という順番となる。

上記のことをふまえると、因果関係の確定性が共通という点で、以下のように、非終止と終止で、それぞれの形が対応していると考えられる。

「せいで」と「せいだ」

54) 記録的な長さの梅雨のせいで、家の中はすっかりしけていた。(ピアノシモ・166)

54') 家の中がすっかりしけていたのは、記録的な長さの梅雨のせいだ。

「せいか」と「せいだろう(か)」

55) 風邪薬のせいか、久しぶりに安らかに、夢も見ずに深く眠った。(キッチン・185)

55') 久しぶりに安らかに、夢を見ずに深く眠ったのは、風邪薬のせいだろうか。

「せいもあって」と「せいもある」

56) 天亭は主人の昔気質のせいもあって、味のよいわりには値が安いと評判が高かった。

56') 天亭が味のよいわりには値が安いと評判が高かったのは、主人の昔気質のせいもある。

(98) 他人同士・210)

4. 今後の課題

本研究の結果から、評価性と因果関係の確定性の間に相関性があることがうかがえる。この相関性に関する考察は現段階では行っていない。評価性と因果関係の確定性の間にある相関性が、他の表現を分析する際にも応用できるか否かについては、今後、対象を広げて研究を進める中で、検討していきたいと思う。

謝 辞

本研究を成すにあたっては、丁寧にご指導くださいました工藤真由美教授、並びに、有益な御意見を賜りました斉藤美穂氏に、この場を借りて深く御礼を申し上げます。

【用例出典】(本稿に掲載したもののみ)

【小説】

赤川次郎(1993)『シングル』角川文庫(1996), 浅田次郎(1997)『地下鉄に乗って』講談社文庫(2003), 阿刀田高(1989)『他人同士』新潮文庫(1993), 阿刀田高(1986)『待っている男』角川文庫(1989), 池澤夏樹(1990)『バビロンに行きて歌え』新潮文庫(2002), 景山民夫(1994)『ティンカーベル・メモリー』角川文庫(1997), 金城一紀(2000)『GO』講談社文庫(2003), 勝目梓(1985)『暗殺都市』角川文庫(1991), 喜多嶋隆(1993)『ビリーがいた夏』角川文庫(1993), 北原リエ(1989)『プールサイド』角川文庫(1992), 小池真理子(1996)『うわさ』光文社文庫(2000), 小池真理子(1997)『欲望』新潮文庫(2001), 小杉健治(1990)『虚飾の自画像』徳間文庫(1993), 笹沢左保(1992)『媚薬』光文社文庫(1993), 篠田節子(1996)『死神』文春新書(2000), 清水一行(1994)『新人王』徳間文庫(1999), 真保裕一(1995)『ホワイトアウト』新潮文庫(2000), 真保裕一(1991)『連鎖』講談社文庫(2002), 鈴木光司(1991)『リング』角川文庫(1998), 鈴木光司(1995)『らせん』角川文庫(1998), 鈴木光司(1998)『ループ』角川文庫(2000), 田中澄江(1995)『夫の始末』講談社文庫(1998), 辻仁成(1990)『ピアノシモ』集英社文庫(1992), 辻仁成(1996)『アンチノイズ』新潮文庫(1999), 辻仁成(1999)『冷静と情熱の間 Blu』角川文庫(2001), 乃南アサ(1996)『凍える牙』新潮文庫(2003), 貫井徳郎(1999)『転生』幻冬舎文庫(2003), 花村満月(1997)『皆月』講談社文庫(2000), 坂東真砂子(1995)『桜雨』集英社文庫(1998), 宮部みゆき(1998)『理由』朝日新聞社(2004), 村上春樹(1991)『ダンス・ダンス・ダンス・(上)』講談社文庫(2003), 村山由佳(1995)『野生の風』集英社文庫(2001), 湯本香樹美(1992)『夏の庭』新潮文庫(2002), 吉村達也(1993)『初恋』角川文庫(1997), 吉本ばなな(1988)『キッチン』新潮文庫(2003)

【論述文】

岡田英弘(2001)『歴史とはなにか』文春新書, 山下富美代(1988)『集中力』講談社現代新書

参 考 文 献

安達太郎(1995a)「「カ」による従属節の不確定性の表示について」, 仁田義雄編『複文の研究(上)』, くろしお出版。

(1995b)「ノカとカラカ, タメカ, セイカ, テカ 不確定的な従属節」, 宮島達夫・仁田義雄編

- 『日本語類義表現の文法』, くろしお出版 .
- 奥田靖雄 (1983) 「で格の名詞と動詞とのくみあわせ」, 言語学研究会編 『日本語文法・連語論 (資料編)』, むぎ書房 .
- グループ・ジャマシイ編 (1998) 『教師と学習者のための日本語文型辞典』, くろしお出版 .
- 鈴木重幸 (1972) 『日本語文法・形態論』, むぎ書房 .
- 小学館辞典編集部 (1994) 『類語例解辞典』, 小学館 .
- 高橋太郎ほか (2001) 『日本語の文法』, 正文社 .
- 寺村秀夫 (1984) 『日本語のシンタクスと意味Ⅱ』, くろしお出版 .
- 森田良行 (1980) 『基礎日本語辞典』, 角川書店 .
- (1996) 『意味分析の方法』, ひつじ書房 .